

北海之光

5月号 北海道教区報

わたしがここにおります

わたしを遣わしてください

イザヤ書6章8節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

「復活からペンテコステへ」

札幌聖ミカエル教会牧師
新札幌聖ニコラス教会管理牧師
司祭 コルベ 下 澤 昌

春になると、幼稚園では子どもたちに復活のお話しをします。少し困るのは、イエス様をまだ知らない新入園の子どもたちにも、そのお話しをしなければならぬことです。しかし意外にも、素直に復活のイエス様を受け入れているように安心します。

考えてみると、現代の子どもよりも、二千年前のイエス様の周りにいた大人に復活を伝える方が、よほど困難だったでしょう。聖書の復活物語には、弟子たちがあまりにも信じないので、イエス様が焼いた魚をむしゃむしゃ食べる場面があります。復活の周りには、こんな心温まる、静かな喜びに包まれた明るさがありました。こういう場面を思い起こすと、私たちが聖餐式をあまりにも荘厳に、また、

難しい顔をして参加することに少し違和感があります。イエス様を囲んで、弟子たちの絶望と死への恐怖が、感謝と希望に変えられます。当然そこには笑顔があつたはずですが。聖餐式もイエス様の復活を記念しているのですから、もつと喜びが前に出ていいのではないかと思います。

なぜ大人は、なかなか復活を信じられないのでしょうか。多分、大人は復活と聞くとすぐ、それはどうやって起こったのかと、その方法に目が向きます(英語でいうhow)。でも、そのように復活を見ると、一生かかってもその意味を知るのには難しいと思うのです。復活は、どうやってではなく、なぜ(why)、何のためにというところが肝心です。復活とは、冷え切つ

た心とからだ、魂が、神様の体温を再びいただいで温まる、魂のウォームアップ。笑顔と喜びを取り戻すためなのです。

イエス様は「あなたがたはこれらのことの証人となる」と言われます。トマスや、他の弟子たちと違って、直接イエス様を見たことがない私たちの場合、信じるのに時間がかかるのは当然です。しかし、それでも私たちは復活の証人なのです。あきらめないで、信じる努力をする態度が求められています。それは、イエス様が私たちをあきらめず、救おうとされるお方だからです。私たちも証人として、確信をもって、キリストは確かに甦られたと宣言できたらと願います。

イエス様を見たことがない私たちが、どうしたらそんなことができるでしょうか。そこで注目したいのが聖霊の降臨です。弟子たちが真の復活の証人となったのは、ペンテコステの出来事を契機としています。確信が持てない弱さ

を持った人間が、帆かけ舟が風を受けるように、神様の風を受けて前に進みます。私たちの周りにも、すでにおおらかな神の風が吹いている。私たちも心の帆を張って、その風に自分を委ねてみたいと思います。

思い出したいことがあります。私たちが苦しいとき、悲しいとき、病気のときに、イエス様の存在を自分の傍らに感じる時がなかったでしょうか、イエス様に近くにいて欲しいと願ったことはないでしょうか。また、私たちの家族が天に召されたとしても、それが永遠の別れではなく、再び会える心から感じるこゝとがないでしょうか。それこそが、聖霊の助けを得ている私たちの復活体験です。復活について、難しく、奥歯にものがはさまったような態度で臨む必要はありません。自分の経験を通し、聖霊の助けを信じて、毅然として、復活はあると、誰にでも臆することなく語り得る者になりたいのです。



—心の窓をひらけ—

福音と私(二一六)



— 今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか —

小樽聖公会信徒

クララ 高橋 愛



【好きな聖句】

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

(テサロニケの信徒への手紙二 第五章一六節〜一八節)

私はクリスチャンホームに育ちましたが、父と私がクリスチャンとなったのは、母が他教派から聖公会に転籍してからのことでした。いまから一八年ほど前のことです。それまで母が通っていた教会には私もついて行って、教会学校にも行っていました。しかし幼かったこともあり、教会に行っていないというよりは、よくわからないけれどつ

いて行って遊ぶところという感覚だった記憶があります。また、当時通っていた教会の洗礼式は全浸礼だったので、私は絶対に洗礼を受けないと幼いながらに決めていたことをとてもよく覚えています。

しかし、小樽聖公会に家族みんなで通うようになり、両親が堅信を受け、私もGFSのキャンプなどにお世話になるなかで、クリスチャンとなる事を少しずつ考えるようになりました。そこには堅信を受けた後、とても熱心なクリスチャンとなった父の信仰があったと思っています。

クリスチャンとなった後、父は枕元には常に聖書と祈祷

書をおいていて、朝晩のお祈りは欠かさない祈る人でした。父の神様に向かう姿勢で忘れられないことがあります。私がうっかり聖書を床に置いてしまった時、父は、物凄く剣幕で「聖書を床に置くんじゃない」と私を叱責したのです。人の足が触れるところに聖なるものを置いてはいけない、これが父の信仰の要となる神様への絶対的な信仰の深さだったのです。

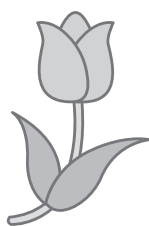
そんな父も一一年前に地上の生活を離れました。でも、信仰の篤かった父の想いをうけて、ミッションスクールへの進学が叶えられました。父亡き後の生活は大変なものでしたが、北星学園女子高校という新しい世界で私はたくさんのお恵みに与ることができました。

まだ二〇代半ばと若い私ですが、毎日の生活や仕事や人々の様々な出来事の中で大声で泣きだしたくなることや、辛いことも沢山あります。

す。そんなときに、この聖句を思いだすのです。「いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝しなさい」。よく読んでみると、このみ言葉は命令形です。喜べない時に喜べ、祈れない時に祈れ、感謝できない時に感謝しろ。とても難しい要求のような気がしますが、でも、日常生活の中に小さな喜びやささやかな感謝、そして求めて祈ることが沢山あるのです。「え、こんなことに？」と思われるかも知れませんが、電車で滑り込み間に合ったときに主に感謝、好きなアーティストのコンサートチケットが取れて主に感謝、くだらないことみたいに感じられるかも知れませんが、神様のお恵みは日常生活のあらゆることに及んでいます。私は思います。小さな想いが叶うときにこれは神様がお許しになったのかもしれないと喜びをもって受け入れること、そんな事が私を支えてきたように思います。

父の願いは、私が教会の子どもとして育つことでした。幸いなことに思春期に教会を離れることなく私は教会のみなさんに支えられ、教会の子どもとして信仰生活を歩んでいます。

私の人生、これからも色々なことがあると思いますが、教会のみなさんに支えられ様と天の全会衆のみなさんに見守られ、私の人生をしっかりと歩んでいきたいと思っています。「いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝しなさい」。そんなふうに思いながら、祈りながら、過ごす日々は小さな感謝や喜びに満ちているといま改めて思いました。辛い時こそ大変な時こそ、このみ言葉を行いながら神様とともに歩む日々を送っていききたいと思っています。



常置委員会報告
第六回四月二十六日

《協議事項》

一、教区礼拝・教区の日
今年度の教区の日を五月二〇日とする。
二、日本聖公会総会に関する件
大町信也司祭、永谷亮司祭、津田武典さん、尾関敏明さんの出席を確認した。
三、定期教区会日程の件
一月二二日・二三日を予定日として確保し、昨年同様



主教室より

四月中旬、六日間、インドのバンガロールで開かれたアジア宗教者平和会議に行ってきました。毎朝、ホテルから会場である大学までタクシーを使います。五分ほどのドライブですが、それはドライブなどと悠長に言えるものではなく、まさに命がけの出撃のよう。道路は三車線であっても、そこに車が五列でひしめきあい、少しでも隙間ができるごとにバイクが何列にもなつて割り込んできます。リキシャもいて、車間距離という概念は前後左右、まったく無し。パッパッというクラクションがそこかしこで響き渡り

こととした。
二、日本聖公会総会に関する件
一日の議事日程とするか二日間とするかについては、今後の検討課題とした。
四、第三回ハラスメント防止・対策担当者会の件
教区より一名を派遣する事を確認した。
五、「第三二回政教分離訴訟全国交流会」の件

ます。隙間を空けないように、タクシーは急発進と急停止を繰り返します。そこに、牛がぬーつと入ってきたり、お婆さんがゆっくり横断していきます。「わーっ、あぶなーいっ！」と絶え間なく叫びながら、シートベルトの無い客席で必死に足を踏ん張っていました。まさに、スリルなどというものはなく恐怖を感じました。会場に着いても、胃がきゅーつと縮みあがって、せつかく出された美味いはずのインド紅茶も飲めませんでした。

このような大混乱の道路状況でありながら、交通事故は見えないのです。日本でしたら、すぐにも衝突が起

こり、車同士や人との接触事故、そして喧嘩や殴り合いにもなるのでしょうか。無秩序極まりないと私の目には映るのですが、どうやらそこには絶妙な交通秩序があつて、人々は毎日、このような中に自分の居場所があり、生活しているのようです。
宗教間の緊張もインドにはあります。教会が襲撃されたということも時々聞きます。でも、教会も信徒たちも自分たちの存在を精一杯主張しています。そこにも絶妙な秩序があるように思えます。

あゝあ、帰りもまたホテルまで恐怖のドライブが待っているのか。やれやれ。主教 ナタナエル 植松 誠

広谷和文司祭を派遣する事を承認した。
六、広島平和礼拝二〇一八の件
教役者一名、青年一名の参加者を募る事とした。
七、稚内聖公会、厚岸聖オーガスチン教会の件
現況について報告を受け、今後について協議した。

堅信式受領
おめでとう

苦小牧聖ルカ教会
マゲダラのマリヤ
高橋 美倫
(四月二九日)

十 教区逝去教役者
記念聖餐式

六月二三日(水)

午前二〇時三〇分
於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。
司祭 渡邊 英 治

一九八三年六月一四日
伝道師 元 城 佐吉郎

一九二四年六月二八日
執事 本田 憲 之

一九一八年六月三〇日

全国の皆様へ
道北四教会合同
礼拝のお知らせ

一、日時
八月二六日(日)
一〇時三〇分

一、場所
稚内聖公会

一、参加費他
現地集合、現地解散。
前日の豊富温泉一泊二食付を含み約一万円

日本聖公会最北の教会の維持のためにも北海道のみならず、全国的にも参加の輪を広げようとの思いから今年は、全国の皆様にもご案内いたします。

詳細は、個別に案内いたしますので連絡ください。

事務局

旭川聖マルコ教会
〇一六六一二二一九三九五
司祭ミカエル広谷和文
事務局長 テトス 久末隼一



▽留萌キリスト教会

イースターの喜びの日、三歳の一麻ちゃんも祖父母の藤井さん夫妻と一緒に礼拝と祝会ができました。一三名の出席でした。

教友の山岸道子さん(八五歳)は、年末に転倒・骨折され、入院とリハビリを経て無事退院され、手芸の会に復帰。本当にうれしい出来事でした。

▽紋別聖マリヤ教会

四月に入り寒い日はあつても、ようやく春らしい暖かい日が続く今日この頃です。教会では、一日にイースター礼

拝が行われ二六人の方々が出席し、子どもと捧げる礼拝が楽しく行われました。幼稚園では、九日に始業式が行われ新学期が始まり、翌一〇日には第六三回入園式が行われ、二四人の園児が入園されました。これから桜が咲き春の息吹に包まれます。神様の恵みが豊かにありますように。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

一日復活日礼拝で山本寿福さん奉献のパスカルキャンドル祝福。祝会は、オリーブ会特製ちらし寿司と厚岸の佐田里美さんのアサリ汁に舌鼓。

頌栄保育園、九日に入園式。春の嵐の一日、礼拝後教区礼拝バザーの準備「釧路産おいしい早煮昆布」ご期待を。

二二日前田博美さん司式「み言葉の礼拝」で飯沼勇一さんのお話を拝聴。次回も楽しみの声。今年も『いのちの分かち合い』、二九日エンブリオの働き、五月二七日第八回脱原発学習会を行います。

委員会で厚岸教会の維持、話合う。清掃奉仕継続的に。

▽旭川聖マルコ教会

この冬、雪の多かった旭川にもようやく春がやってきました。一日はイースター礼拝。恒例の祝会では、前日のこともイースターに引き続き、マジックショーに沸きました。七日保育園は入園式。

八日礼拝後のミニ講座がスタート。礼拝に関する学びの時間です。一六〜一七日は「ワツカナイ イースターキャラバン」。広谷司祭他二名が参加。二二日はマルコ講座。ガラテヤの信徒への手紙の最終回。二九日の礼拝後、園庭で冬囲いを外していると、桜のつぼみが開きかけました。

▽新冠聖フランシス教会

四月一日に「主のご復活」を一八名の出席者で、高らかに喜びの声を上げました。四日には聖品を携えて施設におられる方々を訪問いたしました。厚賀・東川の「オウルの郷」に奥田康嘉さん、静江さん、溝尾秀子さん、山田衛さん、そして紋別「愛生苑」の後藤富子さんです。みなさん

平安にお過ごしです。

二二日(復活節第四主日)、主教さまのご巡錫をいただきました。前日インドから帰国されお疲れのところ、三千代奥さまと子どものお出でましを心から感謝いたします。

▽帯広聖公会

一日、植松主教様の司式による復活日礼拝感謝。持ち寄りの愛餐会は実に豊かで、皆その一部を食べただけで満たされました。九日、病院や施設で復活日を迎えられた信徒を松井司祭ほか五人で訪問し、御聖体を頂き、歓談、愛唱聖歌を歌いました。一日には聖公会幼稚園の入園式。三七名の子ども達が希望に胸を膨らませて入園。一〇二名の園児の新学期が始まりました。二一、二二日には松井、永谷両司祭と共に懇親会をもち、新しい牧会体制による教会への、主のお導きと祝福を祈りました。

▽平取聖公会

びらとり農協の直売所で連休前にハウストマトが初売りされました。今年も全道一の

生産を目指して農家が頑張りますが、百人を超える中国人実習生の貢献も大きいです。新規就農者二家族も二年間の研修中です。

イースターを迎えた後に植松主教の巡回がありました。春を二度迎えるような喜びがあります。内海牧師は九年目の牧会に入られました。毎週の説教と笑顔が信徒を育てて下さいます。

保育園の元気な園児は新年度六〇名を超えました。

▽岩見沢聖十字教会

四月一日、横山明光司祭司式の復活日礼拝。礼拝堂は多くの会衆で満たされる。幼稚園の先生も多く出席。福音に初めて接する方も。礼拝後の愛餐会は楽しい一時。いつまでも歓談と笑い声に包まれる。

一〇日、幼稚園入園式。期待と不安の中、会場へ入る園児と保護者。職員も心引き締まる思い。三年間責任を持つて保育する決意が示される。今回も菊地和子園長のお父様である札幌聖ミカエル教会信

徒・佐藤信吉兄が奉仕されて
いる日本ギデオン協会から新
約聖書が贈られる。

▽札幌キリスト教会

北大構内に可憐な花が咲い
ています。復活日は療養され
ていた大友司祭が司式者団に
参加、細矢執事の姿も会衆席
に。感謝。新入学・進級する
子ども達の祝福式も行われま
した。礼拝後、祝会の出し物
を楽しみ、聖公会神学院に三
日に入学された三浦千晴さん
の壮行会も行われました。こ
れまでの交わりと働きに感
謝、神学院での学びと生活の
上に祝福がありますように。

川上智浩・春香夫妻、小笠
原慶彦・彩絵夫妻に女兒誕生。
新しい命に祝福を。一二日モ
ニカ岩崎洋子姉逝去。魂の上
に平安を。二一日今田貴志・
向井邦子夫妻の聖婚式。二人
の新生活に祝福を。

▽札幌聖ミカエル教会

四月はイースター礼拝から
スタート。今年も一六〇名の
出席で主のご復活を祝いまし
た。原田あかねさんが洗礼、
初陪餐のお恵みにあずかる。

おめでとうございます。祝会
では持ち寄りの料理をいただ
き、こども聖歌隊、聖歌隊、
手話の会、幼稚園による出
し物で楽しく過ごしました。

一日幼稚園入園式、一五日
国際青年寮に入る三名の入寮
式と、聖ミカエルの交わりに
加わる方々を迎える、春の恒
例行事が続く。中高生会のエ
ンジェルウイングスも七名の
加入者を迎え、ますます元気
です。

▽稚内聖公会

「ワッカナイ・イースター・
キャラバン」。四月一六日朝
旭川を三名で出発、到着後礼
拝堂の掃除をして、午後二時
よりイースター礼拝。続いて
お祝い会。悲喜こもごもの一
年を振り返りながら、イース
ターの喜びを確かめ合う。翌
日、豊富町の「エベコロベツ
自給のむら」に久世薫嗣さん
を訪ね、近況を伺う。春休み
には十数名の福島の子どもた
ちが保養に訪れ、賑やかだっ
た由。今後も支援を続けてい
きたい。その後角瀬洋さんの
入院先の名寄総合病院にて聖

餐式。夜、旭川に帰着。

▽函館聖ヨハネ教会

昨年より少し早く水仙の花
が咲いた復活日。祝会は復活
の絵本をプロジェクトで写
して鑑賞後、子どもたちが「卵
シール探し」などで笑顔溢れ
る。

今年もオープンチャーチが
始まり、信徒が交代で国内外
からの観光客をお迎えする。
六月からの聖堂修復工事開
始にそなえ、バラの植替えや
木の剪定など準備を行う。

二九日は、昼食後、婦人会
主催「お花見」で桜満開の函
館公園へ、老若男女が徒歩で
向い、ハードで清らかな一日。
春は異動の季節、四国へ単
身赴任の狩野兄、今金へ佐久
間家。転入は、山本兄(小樽)
と北大生の橋本姉(札キ)。

▽有珠聖公会

四月二二日、今まで夕方の
礼拝でしたが、今月より朝
一〇時半から始まる礼拝。教
会の参道に咲く水仙、ムスカ
リが優しく迎えてくれました
。「おはよう」の挨拶で始
まる礼拝が新鮮でした。礼拝

後、牧師は十分な時間をいた
だき家庭・病床訪問。

四月三〇日、三浦綾子文学

記念館の特別研究員の森下辰
衛先生を講師に、三浦綾子読
書講演会「道ありき」を開催。
茅野達雄さんの司会、約三〇
名が、泣き笑いの内に感動の
時を共にしました。集会に備
えて片平芳裕さんが礼拝堂の
窓拭きなど環境整備をして下
さり、清々しい空間が、講演
会を相応しく包みました。

▽小樽聖公会

四月一日の復活日は、聖餐
式に続いて祝会が開かれ、心
づくしの食事と聖歌、楽器演
奏も行われ楽しいひとときを
過ごしました。また、復活日
より聖餐式で用いられるチャ
ントが新しく数曲選ばれてい
ます。
八日には、植松主教司式の
もと牧師就任式が行われ、副
牧師の永谷司祭が牧師に就任
されました。管理牧師を務め
てくださったいた植松主教様
に感謝です。

今年の教会バザーは、昨年
同様「教会カフェ・ミニバ

ザー」として六月一四日
一六日に行われることとなり
ました。

▽新札幌聖ニコラス教会

四月はイースターの喜びか
ら始まりました。聖堂入口で
上平仁志司祭から「復活の
ろうそくの祝福」が行われ、
私達の心を照らす光が灯され
る。

祝会では四〇名近くが参加
し恒例の「エッグハント」。
礼拝堂を笑顔で隈なく探す姿
に、主の復活を待ち望んだ時
を感じる。また二名による太
極拳の演武を拝見、身も心も
清らかに・・・
暖かな日差しの中の第四日礼
拝後、お弁当持参で多くの信
徒が残り、教会前庭の土起こ
し、花壇の準備中「あらっ
不思議イチゴの苗が」どな
た・・・

第五主日は男性陣が昼食当

番との指示！今月は見本よと
「パンとスープとサラダ」の
バイキング。さて七月は・・・
▽室蘭聖マタイ教会
吉野司祭が管理牧師となら
れて初めての主日を復活日と

してお迎えできました。白の祭色、静かな喜びの礼拝。愛餐会は賑やか和やか、うれしいひとときでした。その日のお勧めは「白」。白は新しい生命の象徴、新しさは怖さを内包している、新たな扉を開ける時の不安、明るい期待ばかりではない、暗い先を見透かしつつもその扉を開けなければならぬ事もある。イエス様に呼びかけつつ、御声に耳をすませながら歩みましよう。新入学一日目で泣いてしまった孫にも伝えました。

田中孝子さんの白内障の手術が無事終わりました。藤井昭市さんは九一歳に！祈祷書のお勉強会も再開されました、春と一緒に新しい風が吹きます。

▽網走聖ペテロ教会

主のご復活のいのちが私たちの体、心、人生に満ち溢れますように主の大いなる恵みを感じます。三月二十五日急遽主教巡回礼拝になり感謝と賛美を捧げました。又、クララ和田昭子姉の逝去一カ月の祈りも共に出来たことを感謝

します。教会駐車場もいつも冬から春にかけて雪が融け真ん中に溜まった水を運び出す排水の仕事があるので、今回は業者に見積もっていただいています。どうか主のみ心がありますように。最近の荒れた天候、寒暖の変化には驚きです。日本中を駆け巡っているようです。

▽深川聖三一教会

四月一日復活祭、嘘つき遊びをする。七日、あけぼの保育園第四六回入園式、小野垣道代さんより祝辞。八日、委員会で新来会者向けの案内書の文案検討中。九日、道北分区教役者会を深川で開き広谷、木村、甲斐各司祭出席。

一〇日、保育園職員会議、年頭につき担任も決まり決意も新たに出発。一五日、婦人会、西原廉太司祭の「聖公会が大切にしてきたもの」を学習中。二八日、テモテ平護兄逝去一年の記念式、一七名出席。初代信徒平常一兄は子どもにも信仰の守護、聖公会信仰の公明、信仰の希望と名付けたのでした。

▽北見聖ヤコブ教会

一、二名で祝われたイースター、私たちの人生は絶望で終わりのではなく「そのあと」があることを共に覚えました。礼拝後司祭はイースターエッグとお菓子を持ってお二人をお訪ねいたしました。一五日、ギデオンの協会の方々が見えられ報告と証の時を持ってくださいました。

二一日、除雪機がメンテナンスと保管に入り、二三日には町内の一斉清掃があり、二四日には窓の雪囲いを取り外しました。司祭は、YMCAの開講式や、ルーテル教会の現会堂最終礼拝に出席したりしています。

▽聖マーガレット教会

例年より早い春の訪れを感じながら、二日のイースター礼拝には約六〇名が集い主のご復活を賛美し喜びを分かち合いました。また、幼子の祝福式も行い、笑顔あふれる礼拝となりました。祝会も婦人会による恵み豊かな食卓を皆で囲み、楽しい時をもつことができました。

一五日は、主教巡回日で植松主教司式・説教による聖餐式でした。今月は全主日聖餐に与ることができ感謝します。

二九日は、五週目の主日なので男性の昼食当番、今回はアスパラカレーです。おしいと大好評でした。感謝。

▽今金インマヌエル教会

四月八日、植松主教、三千代姉を迎え、イースター、種の祝福礼拝を守ることができました。米、芋、コーン、牧草の種子が揃い、今年も豊かな実りと、農作業の無事を祈りました。礼拝後の祝会では、沢山の料理が各家庭から持ち寄り、大盛況!!おしく頂きました。感謝。又、函館聖ヨ

ハネ教会から、この四月より転居された佐久間義人さん、昌美さん、愛子ちゃん、大義君、ようこそ今金インマヌエル教会へ。心から歓迎します。転校、入学の子ども達の上にも神様の祝福がありますように。

▽苫小牧聖ルカ教会

イースター礼拝は幼稚園の

保護者を含め五〇名を超える参列者があり、祝会は聖ルカ幼稚園新園舎ホールで盛大に行いました。また、高橋美倫姉と二人の子どもの洗礼式が行われました。一五日はオルターギルド研修会を行いオルターの心得や聖器具等の名前を学びました。四月から吉野司祭が室蘭聖マタイ教会の管理牧師に就任したことから毎月第二主日はみ言葉の礼拝が行われます。教会問答を冊子に編集し配布されました。これから少しずつ学習して行きます。二九日は主教巡錫の主日でした。高橋姉の堅信式を行いました。主に感謝。

